

令和5年度

# 学校評価報告書

山梨市立岩手小学校

## 令和5年度 学校評価について

山梨市立岩手小学校

本校における学校評価について、次のように実施しましたので報告いたします。

### 1 実施の内容及び実施方法等について

#### (1) 自己評価の実施

学校教育目標「自ら学び、心身共に健康な子どもの育成」の達成に向け、「自ら学ぶ子どもを育むため 確かな学力の育成」「心身共に健康な子どもを育むため 豊かな心の育成・健やかな体の育成」「地域と共に子どもを育むため 地域や世界で活躍できる人材の育成・家庭や地域との連携」「働き方改革」という4つの重点目標について、それらを17に細分化した項目で、自己評価をおこなった。

#### (2) 児童・保護者・教職員への学校教育アンケート調査の実施

今年度から、Google Forms を用いて学校教育アンケートを行った。児童・保護者・教職員に対して、言葉は分かりやすくしてあるが、同じ内容のことを問うようアンケートを実施した。それぞれの捉え方にどのような違いがあるか、肯定的評価の最も高いものを4、最も低いものを1と数値化し、平均値を比較した。また、肯定的評価の割合についても数値化し、児童・保護者・教職員の評価を比較した。

#### (3) 職員会議での検討

職員による自己評価及び、三者の学校教育アンケートの結果から、今年度の成果と課題を明らかにした。また、昨年度から課題となっている項目について、重点化する事項を洗い出した。

#### (4) 学校評価結果検討会の開催

重点化した事項について、それぞれどのような手立てが出来るのか、その改善策を検討した。今後の方向性と具体的な取組を考え、来年度の方向性を全職員で確認した。

#### (5) 学校運営協議会での学校関係者評価

自己評価及び学校教育アンケートの結果をすべて示し、学校評価検討会で出された、今後の方向性と具体的な取組に対して、ご意見をいただいた。

#### (6) 保護者への公表

分析・考察したことをもとに、成果と課題を明示し、来年度の方向性を示した。また、学校教育アンケートの数値結果を保護者へ公表した。

### 2 集計結果の考察

#### (1) 教職員による自己評価から

学校教育目標を意識して教育活動に取り組むことが出来ている。自己評価として、成果を感じている部分や不足を感じている部分はあるが、全体的に肯定的な意見が多いことが数値に現れている。達成状況や今後の改善・充実方策を文章表記してもらったところを見ると、とくに、家庭学習の習慣化や道德教育の推進、働き方改革の推進など課題と感じていることがわかる。また実際の数値として現れている。

## (2) 保護者アンケート・児童アンケートの結果から

児童・保護者の認識と教職員の認識が同じ項目が多い。大きく異なる項目は「ネット使用について」で、開きが非常に大きい。アウトメディアについては、PTAの重点目標に設定するなど保護者を巻き込んだ取り組みをしたが、さらに保護者の協力や、児童に直接働きかける取り組みが必要であると感じた。他にも「体力向上について」も開きが大きい。また、「読書」については、昨年度同様に三者とも肯定的評価が低い。引き続き、学校側として具体的な取り組みを考えていくことが必要である。

## 3 今後の方向性

今年度の学校評価から課題とされた事項について、来年度の重点項目として、具体的な取組を行っていく。

「家庭学習（自主学習含む）」については個に応じたきめ細かな対応、ICTの利活用を進めていく。自分で考え、進んで取り組める自主学習となるようにする。そのための意識付けとして、昨年度に引き続き「未来へつなごう岩手っこのまなび」プロジェクトを立ち上げる。家庭学習における自分の現在地を、「見える化」し、継続した積み上げを学校と家庭とが連携して進めていく。また、ICT端末の利活用により、児童一人一人の学習ニーズに対応した宿題を出し、「個別最適な学び」の実現を図っていく。

豊かな心の育成として「読書活動」は、「朝読書」や「読書カード」の取り組みを継続して行う。また、定期的に「読書の日」や「読書週間」を計画し、読書を習慣化できるように取り組む。「あいさつ」は、児童総会で話題に取り上げるなど、児童会を中心にあいさつについて意識する機会を設け、気持ちよい自然なあいさつが出来るように根気強く指導を継続する。

基本的生活習慣の確立では、保護者・職員ともに最も課題と感じているのが「ネット使用について」である。家庭と協力しながら、折に触れてネット利用の長時間化がおよぼす影響などを考える機会をつくる。また、学校でもICTの利用時間については考慮して、改善していく。

## 4 まとめ

昨年度の反省から、「進んで考え行動できる児童」を目指してきた。学校全体で考えさせる一手間をかけることを共通理解の下、指示を待つのではなく、失敗してもよいから、自分で考えて行動することや子ども達の意見を大切にすることを心がけてきた。その成果が、日頃の学校生活や、各種学校行事等にも現れていた。少人数ということで、一人一人が責任を持つことが多いが、今後も任せて取り組ませ、認め、褒めながら子どもの成長を促していきたい。

# 教職員による自己評価

学校教育目標「自ら学び 心身共に健康な 子どもの育成」 評価指標ごとに、【4:「とてもそう」3:「そう思う」2:「あまり思わない」1:「思わない」】で集計

| 重点目標             | 番号                | 評価項目                    | 評価指標                                                           | 自己評価<br>平均値 | 教師の具体的方策                                                                            |
|------------------|-------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 自ら学ぶ子どもを育むために    | ○確かな学力の育成         | 1 学習者を主体とした授業づくり        | 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業実践と改善を積み上げ、授業力の向上に努めている                 | 3.1         | ・児童が自ら課題を見つけ、自ら解決に向かえるよう仕組んだか<br>・授業を振り返り、改善を行ったか                                   |
|                  |                   | 2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現 | 児童一人一人の学習状況を把握し、個に応じた内容や指導法で、協働的な学習を行っている                      | 3.1         | ・机間指導を行い、常に児童の学習状況を把握したか<br>・他者の思考を参考にしたり、他者への助言を与えたりする展開を仕組んだか                     |
|                  |                   | 3 ICT端末を中心とした機器の活用      | 児童の発達段階を考慮しながら、ICT機器や環境を最大限に生かした授業の充実を図っている                    | 3.5         | ・大型モニター等の機器やデジタル教科書を適時使用したか<br>・クラウド環境を活用した学習を仕組んだか                                 |
|                  |                   | 4 学習習慣の確立               | 児童に基本的な学習内容の習得や家庭学習の習慣が身につくように取り組んでいる                          | 3.0         | ・朝活動を活用し、基本的な学習内容の定着を図ったか<br>・「岩手っ子の学び」を利用したり、家庭学習の方法を共有したりしたか                      |
| 心身共に健康な子どもを育むために | ○豊かな心の育成          | 5 人権教育の推進               | 児童に自分の大切さや他の人の大切さを認めることのできる人権感覚を涵養している                         | 3.2         | ・互いを認め合える雰囲気づくりに努めたか<br>・自分の良いところに気づかせ、自己有用感を育てているか                                 |
|                  |                   | 6 道徳教育の充実               | 自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が育つ道徳教育を行っている        | 3.0         | ・年間指導計画や全体計画に基づき教育活動全体で、道徳教育を行っているか<br>・授業参観等で、道徳科の授業を行っているか                        |
|                  |                   | 7 読書活動の推進・習慣化           | 日常的に児童が本に親しむ機会を設けて、しなやかな心の育成を図っている                             | 3.1         | ・日常的に児童が読書に親しむ取組を行っているか<br>・朝活動の「読書」を活用し、読書の習慣化を図っているか                              |
|                  |                   | 8 いじめ・不登校・暴力のない集団づくり    | 児童理解を深め、心身の問題の早期発見、早期対応・早期解決に努めている                             | 3.3         | ・児童が安心して学校生活を送れるような学級づくりを行っているか<br>・組織的な相談や支援を行っているか                                |
|                  | ○健やかな体の育成         | 9 体力向上への取組              | 児童の運動習慣、朝食摂取、十分な睡眠等、望ましい生活習慣の定着を通じて体力の向上を図っている                 | 3.1         | ・休み時間等における運動遊びを奨励しているか<br>・学校の課題を踏まえた「健康・体力づくり一校一実践」に取り組んでいるか                       |
|                  |                   | 10 健康教育の推進              | 各教科や領域と関連させて、健康に関する指導を行ったり、食に関する課題を設定して取り組んだりしている              | 3.4         | ・児童が自らの健康について意識し、適切な行動をとることができるよう健康に関する指導をしているか<br>・給食センターの便りや動画等を活用し、食に関する指導をしているか |
|                  |                   | 11 安全教育の推進              | 児童が自分で自分の身を守る能力を育むことができるよう安全教育にとりくんでいる                         | 3.2         | ・交通安全、生活安全、災害安全を網羅した安全教育を行い実効性のある訓練を行っているか<br>・安全点検や環境整備を行い、学校環境を改善しているか            |
| 地域と共に子どもを育むために   | ○地域や世界で活躍できる人材の育成 | 12 英語科教育の充実             | 4技能5領域の言語活動を着実に実施し、コミュニケーション能力を育成している                          | 3.5         | ・英語に慣れ親しむ活動を通じ、体験的に学習させているか<br>・パフォーマンス評価を計画的に行っているか                                |
|                  |                   | 13 地域人材の活用や地域との連携       | 地域の人材を教育活動に活用したり、教職員や児童が地域行事に積極的に参加したりして、郷土への理解を深めている          | 3.5         | ・地域の人材を活用する授業を企画・運営したか<br>・児童に地域行事へ積極的に参加・協力させ、郷土への関心を深めるよう努めたか                     |
|                  |                   | 14 キャリア教育の推進            | 「やまなしキャリア・パスポート」を活用し、教員が対話的にかかわることで児童のキャリア形成を促している             | 3.2         | ・行事や学期始め、学期末等の節目の時期に、目標や振り返りの場を設定したか<br>・児童と対話的にかかわり、目標設定や振り返りの支援をしたか               |
|                  | ○家庭や地域との連携        | 15 家庭・地域への情報発信と連携       | 授業参観やお便り等を通して、児童の様子を家庭に伝えたり、気軽に相談できる雰囲気作りに努め、連絡を取り合ったりして連携している | 3.5         | ・学校の教育活動や児童の様子をおたより等を通じ、保護者や地域に情報発信したか<br>・家庭との連絡を綿密に行い、児童の様子を共有したり、相談したりしたか        |
|                  |                   | 16 関連機関との連携             | 教育相談や特別支援教育等の外部機関と連携し、多角的な支援を展開している                            | 3.5         | ・SCの活用を推進したか<br>・課題を学校が抱え込まず、関係機関と連携し、支援をしたか                                        |
|                  | 働き方改革             | 17 業務改善に向けた工夫の実施        | 勤務時間外の在校時間短縮を意識し、効率的に業務を行う等の働き方改革に努めている                        | 3.0         | ・前例踏襲ばかりではなく、見直しを行い業務改善を図ったか<br>・効率的に業務を行うことができるよう意識的に自らの働き方を見つめたか                  |

# 教職員による自己評価(記述意見)

| 学校教育目標「自ら学び 心身共に健康な 子どもの育成」 評価指標ごとに、【4:「とてもそう」3:「そう思う」2:「あまり思わない」1:「思わない」】で集計 |                                       |                                     |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点目標                                                                          | 番号                                    | 評価項目                                | 自己評価<br>平均値 | 達成状況○や今後の改善・充実方策▲                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 自ら<br>学<br>ぶ<br>子<br>ど<br>も<br>を<br>育<br>む<br>た<br>め<br>に                     | ○確かな<br>学力の<br>育成                     | 1 学習者を主<br>体とした授業<br>づくり            | 3.1         | ○児童の実態に応じた課題の提示や、子どもと学習を振り返ることで、改善ポイントを見つけ次の時間に生かすことができた。<br>○低学年生に指導するにあたり、めあてをもつこと、それに向かって学習を進めることを指導し、定着させた。<br>○授業内で友達の意見を見たり、感想を伝え合う活動を取り入れた。<br>▲主体的な学びとなる課題設定ができるような教員の児童への働きかけが必要。                                                                                                                                                                                        |
|                                                                               |                                       | 2 「個別最適な<br>学び」と「協<br>働的な学び」<br>の実現 | 3.1         | ○机間指導を普段から行い、子ども同士がお互いに教え合う活動を取り入れた。<br>○対話的な活動(話し合いや意見交換)を多く取り入れ、交流する場を作り、児童が考えを深められる活動が十分にできた。<br>▲おそろ学級では児童の実態・状況から協働的な学習を行うことが難しい。<br>▲個別指導はしているが、個に応じた指導法を十分に行っていない。<br>▲ICT端末から離れられないことが多かったように感じる。                                                                                                                                                                         |
|                                                                               |                                       | 3 ICT端末を<br>中心とした機<br>器の活用          | 3.5         | ○デジタル教科書の活用を推進したい使い方がわからないことを言い訳せず、職員がお互いに声をかけ、わかる職員に聞きながら、積極的にICT端末を活用していた。<br>○普段からフロムブックを計画的に使用し、的確な場面ですべての学習の理解度につながるような使い方ができた。児童もICT端末を十分に活用できるようになった。視覚優位な児童も多いため、積極的に活用した。<br>○児童の状況をふまえ、適時ICT端末を使用したり、活用した学習を仕組んだりすることができた。今後も効果的な使用について学び、取り入れていきたい。<br>▲求められる質と量まで、到達できない分野が多かった。                                                                                      |
|                                                                               |                                       | 4 学習習慣の<br>確立                       | 3.0         | ○自主学習にも、児童が取り組めるよう声かけやアドバイスをすることができた。<br>○朝学習の取り組み時間に復習を取り入れ、学習の定着化をはかせるようにした。<br>○朝学習や宿題等を活用し、繰り返し学習を行うことができた。<br>○朝活動の時間に個別の指導ができると一層効果が上がると思う。朝活動の時間を、有効に活用できるように工夫する必要がある。<br>▲家庭学習でICT端末を利用する方法も今後検討していく必要がある。家庭との連携が不十分であった。家庭学習の質や量に対する指導が十分にできなかった。                                                                                                                       |
| 心<br>身<br>共<br>に<br>健<br>康<br>な<br>子<br>ど<br>も<br>を<br>育<br>む<br>た<br>め<br>に  | ○豊かな<br>心の育<br>成                      | 5 人権教育の<br>推進                       | 3.2         | ○個性豊かな子どもたちの心を適切に理解して、対応していただいた。<br>○温かい雰囲気作りにつけ、児童同士が褒め合ったり、寛容し合える環境を整えることができた。<br>○学級づくりや道徳の時間を活用しながら、他者のよさを認める大切さについて指導した。<br>○子ども同士の成果物の良さを伝え合う活動を日常的に行うことができた。<br>▲努力はしたつもりであるが、互いを認め合う学級づくりはうまく進まなかった。                                                                                                                                                                      |
|                                                                               |                                       | 6 道徳教育の<br>充実                       | 3.0         | ○どのような行動をとるべきか自分の行動について考える時間を大切にしたい。<br>○道徳教育の計画に基づき、道徳の時間だけでなく教育活動全体として道徳の教育を進めることができた。<br>▲授業参観で道徳の授業を実施していきたい。授業参観で道徳の授業を行うことは出来なかったが、普段から他者に対する関わり方や、仕事の進め方については日常的に指導した。<br>▲全教育活動での道徳指導を意識していきたい。                                                                                                                                                                           |
|                                                                               |                                       | 7 読書活動の<br>推進・習慣化                   | 3.1         | ○積極的に図書館を活用し、授業などでも資料として図書館の本を取り上げるなどすることができた。<br>○国語の学習で扱う関連図書を紹介したり、限られた時間に読書を読ませたり等、本にふれる時間を工夫している。<br>○季節に関する本を紹介したり、朝読書等に教師が読み聞かせを行ったりした。<br>○どんなに読書やあじさい読書などの読書活動を多く仕組み、普段からの朝読書の活動を通して、読書に親しむことができた。<br>▲図書室の利用を積極的に進めていないので、授業等で活用していきたい。                                                                                                                                 |
|                                                                               |                                       | 8 いじめ・不登<br>校・暴力のな<br>い集団づくり        | 3.3         | ○児童の様子や発言の様子から児童の変化に早期に気づくように努めた。個々のケースに合わせて、対応を相談できた。迅速・適切に対応していただけた。<br>○どの子も全教職員で見守るという考えのもとで、協力して取り組むことができた。<br>○職員間で密に情報を共有し、当該児童に個別の支援ができた。子供達も教職員も普段から話しやすい雰囲気の中、トラブルが起きた際にも協力して解決にあたることができた。<br>▲全職員で見守る体制が整っている日々の生活の中で、個々の児童が安心して登校できる楽しい学級作りを目指した。が、個別の対応が必要な児童が複数いて十分な指導が行き届かなかったところもある。                                                                              |
|                                                                               | ○健やか<br>な体の<br>育成                     | 9 体力向上へ<br>の取組                      | 3.1         | ○先生方も一緒に遊ぶことができ、子どもたちも楽しかったと思う。休み時間を通して、運動遊びを十分に行わせることができた。<br>○児童会主体のミニにこにこタイム、全校体育、にこにこタイムなどを通じて、多種多様な運動・遊びをする機会があり、良いと思う。<br>▲休み時間は元気に遊ぶことができて、忘れ物や早寝・早起きといった基本的な生活習慣への継続的な指導が必要。保護者と連携して生活習慣等指導していく。<br>▲外遊びの推奨や、マラソン大会の開催は持続的な練習に取り組んだが、望ましい生活習慣の形成(特にメディアとの関わり方)にはまだ課題がある。(年間を通して、体力作りを行う方策を考える。体力向上に向けた取り組みの回数を増やす等。)休み時間の運動遊びは限定された遊びになっている。休み時間に外に出ない児童には引き続き声かけなどをしていく。 |
|                                                                               |                                       | 10 健康教育の<br>推進                      | 3.4         | ○健康指導、食育共に積極的に行われていた。養護教諭や栄養職員が教室に行って健康や食に関する指導を定期的に行っていた。<br>○給食動画を見た後に、補足の説明などをしながら、児童に合わせた食教育ができた。栄養士と一緒に食育の大切さについて授業をすることができた。<br>○健康についての指導、身体測定などの機会を見つけることができた。                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                               |                                       | 11 安全教育的<br>推進                      | 3.2         | ○3つの安全に対する訓練(地震、火災、防犯)や教室を実施して、回を重ねるごとに児童の安全意識も高まったと感じる。<br>○交通や生活の安全など、月の目標や、季節、天候に合わせた指導を児童にすることができた。<br>○計画の防災訓練、交通安全教室等が実施されている。避難訓練や、防犯教室等を通して安全について指導することができた。<br>○訓練等の前、学級活動等において、実際に校内の安全施設を確認したり、動画等を活用してどのような行動をとるべきか確認するようにした。                                                                                                                                         |
|                                                                               | ○地域や<br>世界で<br>活躍で<br>きる人<br>材の育<br>成 | 12 英語科教育<br>の充実                     | 3.5         | ○ALTが主体的に授業を行っていた。JTE、ALTと協力し、楽しく学習できる活動が多く取り入れながら、コミュニケーションの能力を向上させることができた。<br>○ハフナー・マース評価も行ったコミュニケーションを大切にしながら、英語に慣れ親しむ活動が行われていた。児童も楽しそうに活動していた。<br>○日常的に児童が進んでALTに声をかけるなど、英語の学習を通してコミュニケーション能力が育ちつつある。<br>○近隣の小学校とデジタルの力を利用して交流の時間を設け、英語でコミュニケーションを取らせることができた。<br>○給食後の遊びがきの時間などに英語の歌を流すなど、普段から英語に触れる機会を作ることができた。                                                              |
|                                                                               |                                       | 13 地域人材の<br>活用や地域<br>との連携           | 3.5         | ○地域の方々との活動が多く、児童の地域への所属感も高まったと思う。世代間ふれあい活動、いきいき地域人材活用、校外学習などが数多く実施でき、地域とのつながりを強く感じた。<br>○地域の人材活用、世代間交流の事業が教育課程にも位置づけられ、継続的な取り組みができている。<br>○農業体験(さつまいもほり等)を通して地域の方との連携を図ることができた。<br>○農業体験指導や世代間交流等、積極的に進めていると思う。今年度は児童集会に他の行事が掌握された。太鼓関係だけでなく、他の教科にも視野を広めていきたい。<br>○地域の人に昔の遊びを教えてもらう機会を児童会集会とコラボして、昨年度より工夫した活動を行うことができた。                                                           |
|                                                                               |                                       | 14 キャリア教育<br>の推進                    | 3.2         | ○キャリアパスポートの記入を通して、学期の終わりに自身の成長を振り返ることができた。<br>○行事に合わせてキャリアパスポートを利用したり、学期ごとに計画的にキャリアパスポートを使うことができた。<br>○めあてをもって活動し、振り返り、成果と課題を児童と一緒に振り返るようにした。<br>▲児童が自分で立てた目標を日常的に意識させることさらに良かった。<br>▲各々の学校行事等での目標設定と振り返りが重要になる。学級単位での取組の必要。                                                                                                                                                      |
|                                                                               |                                       | 15 家庭・地域へ<br>の情報発信<br>と連携           | 3.5         | ○家庭への連絡を密にしていた。小規模校の良さを生かし、家庭と密な連絡を取り合うことが出来ている。<br>○お便りや、電話連絡、直接の会話などで、児童の様子を共有し指導にあたることができた。<br>○児童や学級の様子を少しでもためになる、お便りを活用したり、電話連絡等を活用して連携を取ることができた。<br>○紙媒体を精選し、時間や物的な削減ができた。<br>○個別懇談や、学年部会などの折に普段の児童の様子を保護者に伝えることができた。                                                                                                                                                       |
| 働<br>き<br>方<br>改<br>革                                                         | ○家庭や<br>地域との<br>連携                    | 16 関連機関と<br>の連携                     | 3.5         | ○SCとの連携は、充分でできたと思う。SCや教育委員会と連携することで、それぞれの役割や、方向性について共有し、支援をすることができている。<br>○関係機関と家庭をつなげる支援も積極的に進め、良い成果を得た個に応じて、SC、通級指導教室、関係諸機関との連携がとれていた。<br>○児童の課題や支援に必要な際に、関係機関を活用することができた。<br>○児童が自由に、SCと面談ができる雰囲気があると思う。今年度は児童集会に他の行事が掌握された。太鼓関係だけでなく、他の教科にも視野を広めていきたい。<br>○支援が必要な子だけでなく、スクールカウンセラーとコミュニケーションを取る機会を作り、児童の実態把握に努めることができた。                                                       |
|                                                                               |                                       | 17 業務改善に<br>向けた工夫<br>の実施            | 3.0         | ○業務の効率化や改善を積極的に行った。児童も保護者も教員も皆が納得できる改革を今後も進めたい。ICTを活用することである程度、在校時間を短縮することができた。<br>○職員会議等働き方について、考えてくれているのでありがたい。職員会議資料のデジタル化・事前配布、提案なしは大きな改善。<br>▲昨年度までの資料を今年度の内容に合わせて業務に活用し、時間短縮できるところは有効活用できた。もう少し、計画的に業務を進めていきたい。<br>▲慣れない学年の教科を指導するので、自分自身が見直しを持って日々精一杯であった。<br>▲体育を他の教師にもってもらうことはよかったが、水泳指導や運動会練習期間は空き時間がなく、厳しかった。                                                          |

# 令和5年度 学校教育アンケート <三者比較>

A:とてもそう思う(4) B:そう思う(3)  
C:あまり思わない(2) D:思わない(1) とした場合の値です

| 番号 | 質問内容                                                          | 平均値 |     |     | 肯定的評価(A+B) |     |     |
|----|---------------------------------------------------------------|-----|-----|-----|------------|-----|-----|
|    |                                                               | 児童  | 保護者 | 職員  | 児童         | 保護者 | 職員  |
| 1  | お子さんは、学校で友だちと仲良く活動したり、遊んだりしていると思いますか。                         | 3.8 | 3.5 | 3.4 | 100        | 94  | 100 |
| 2  | お子さんは、みんなで学習するときの望ましい態度(忘れ物をしない、落ち着いて先生や友達の話聞く等)が出来ていると思いますか。 | 3.0 | 2.9 | 3.1 | 82         | 82  | 100 |
| 3  | お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか。                                     | 2.9 | 3.0 | 3.2 | 82         | 82  | 100 |
| 4  | お子さんは、宿題や自主学習など家庭学習を進めていますか。                                  | 3.0 | 2.9 | 2.9 | 73         | 74  | 82  |
| 5  | お子さんは、読書に親しんでいると思いますか。                                        | 2.5 | 2.7 | 2.7 | 52         | 59  | 64  |
| 6  | お子さんは、まわりの人に進んであいさつをしていると思いますか。                               | 3.5 | 3.0 | 3.1 | 97         | 74  | 75  |
| 7  | お子さんは、生命を大切にする心や他人を思いやる心、善悪の判断が身についていると思いますか。                 | 3.5 | 3.4 | 3.4 | 91         | 88  | 100 |
| 8  | お子さんは、自分の良いところや友達の良いところを認めていると思いますか。                          | 3.4 | 3.1 | 3.3 | 97         | 91  | 100 |
| 9  | お子さんは、基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯など)が身についていると思いますか。                   | 3.4 | 3.0 | 2.9 | 94         | 82  | 92  |
| 10 | お子さんは、ネット使用時間やゲーム使用時間を守るなど、自分の健康を守る生活が出来ていると思いますか。            | 3.3 | 2.8 | 2.3 | 91         | 68  | 25  |
| 11 | お子さんは、運動に親しみ、体力が向上していると思いますか。                                 | 3.5 | 3.0 | 2.7 | 91         | 85  | 64  |
| 12 | 先生は、子どもの学習状況に合った方法でわかりやすく教えてくれていると思いますか。                      | 3.7 | 3.6 | 3.3 | 100        | 97  | 100 |
| 13 | 英語の授業では、先生は、子どもの学習状況に合った方法で、英語に慣れ親しむ活動を取り入れてくれていると思いますか。      | 3.4 | 3.4 | 3.5 | 85         | 76  | 100 |
| 14 | 先生は、子どもの学習状況に合った方法でICT端末や大型モニターを使って授業をすすめてくれていると思いますか。        | 3.8 | 3.3 | 3.6 | 100        | 85  | 100 |
| 15 | 先生は、お子さんのことで困ったら相談にのってくれると思いますか。                              | 3.7 | 3.6 | 3.6 | 97         | 97  | 100 |
| 16 | お子さんの話や授業参観や学校行事、学校・学級だよりで学校の様子がよく伝わっていますか。                   | 3.5 | 3.5 | 3.6 | 94         | 91  | 100 |
| 17 | 学校は、環境が整備され、子どもたちが安全に生活できていると思いますか。                           | 3.5 | 3.4 | 3.4 | 94         | 94  | 92  |

## 令和5年度 学校教育アンケート <記述意見>

### 【保護者意見】(主な意見を抜粋してまとめました)

#### ◇AとBについて

- ・①学年問わず仲良く遊んでると聞きます。毎日学校に行くのが楽しいみたいです。(6人)
- ・①学年関係なく、みんなで遊ぶことが多く、上の子は下の子の面倒をみる事が身についている。全校みんなで遊ぶことにより、下の子に優しくしたり、責任感も生まれ、思いやりの気持ちが強くなるのかなと思います。(2人)
- ・④学童での活動、毎日の宿題(自主学習を含む)、習い事(ピアノ、バレエ、書道、新体操)をよくがんばっていると思います。私なら目が回ってしまいそうな活動量です。
- ・④低学年の時から、自主学習に力を入れていただいたことで、やるという習慣がつきやることで力もついてきていると思うから。家での勉強を意欲的にしているから。(2人)
- ・⑤学校で興味のある本が借りられることで、読む意欲が出たきたと思うから。読書が大好きになったのでよかったと思います。(2人)
- ・⑥地域の人との関わりがあることで、色々な世代の人と挨拶したりされたりとても良いことだと思います。岩手の子供たちは、みんな元気に挨拶してくれているから。(2人)
- ・⑦先生がいいところを見つけ、誉めてくれているので、本人も自然とそれが身についているんだと思います。
- ・⑦友達とのトラブルも自分の考えや気持ちをきちんと伝えられるようになったと思います。また相手の気持ちもしっかり考えてお友達と過ごせていると思います。
- ・⑧早寝早起きチャレンジを頑張っている。
- ・⑫我が子を良く見てくれていると思います。
- ・⑫子供の性格・気持ちを理解し、やる気を引き起こしてくれているので自信が付き、頑張ろうとする気持ちが強くなってきていると思うから。
- ・⑬学校での先生のご指導のおかげで勉強に興味を持ち楽しく学ぶ事が出来ていると思います。その為、家庭でも進んで勉強に取り組んでいると思います。
- ・⑭授業参観の時に普通に端末使ったり、モニター使ったりしているから。
- ・⑮先生にはいつも話を聞いていただいたり子供の事で先生と様子を共有できるので、熱心が伝わります。何でも相談でき助かってます。子供が悩んだり困った時は先生方に相談出来るので、家に帰ってきてから学校の話や聞くと、担任の先生が児童のことをよく見て、ちゃんと接してくれていることがよく分かります。みんな同じではなく、ひとりひとり違うことを理解してくれてとても有難い助かっています。(5人)
- ・⑯子供達が、安全に生活できるから。

#### ◆CとDについて

- ・③家庭学習でもしっかり復習をするように話をしました。自主学習で取り組めるようにしていきたいと思います。
- ・⑤読書を勧めます。本を読む習慣を続けてほしい。読書の機会は沢山作っていただいているのですが、本人が苦手なようです。(3人)
- ・⑥恥ずかしいのか自分から進んで挨拶することができない。
- ・⑦家庭の問題であり、学校に落ち度はないです。早寝早起きが全然出来ない為。(2人)
- ・⑩ネットで友達や従姉妹と繋がっているため、どうしても同じ時間に合わせるのが難しいようで、ダラダラやっているとは、思う。
- ・⑩ゲームや動画視聴などのめりこむと時間を守ってくれない時が多々あります。家にいると、どうしてもタブレットやTVを観る時間が多くなってしまいます。(2人)
- ・⑯たまに、学校の様子を聞くと本人はわからないと言うので、理解をしてないのかなーと思います。

#### ◇ご意見欄…(保護者意見をまとめました)

- ・ICTは授業参観で見せていただきました。今度は英語の授業をぜひ見学してみたいです。
- ・クラス担任だけでなく、学年を超えての先生が子供を見てくださっているのがありがたく思います。
- ・先生と児童との仲というか、繋がりと距離感とか関係性がとても良い状態だなと思っています。

### 【教職員の意見】

#### ◇AとBについて～成果

- ・①児童会の集会など、異学年や地域の方とふれあう機会が多いことで、楽しく活動することができている。また、多くの活動に教師が適切な距離感で関わることで、子どもの自主性が育まれているとかんじる。
- ・①学年の枠を超え、一緒に遊んだり掃除をしたりと活動することに抵抗がないところだ。
- ・⑤長期欠席児童やいじめ、友人関係、さらには、家庭環境による児童や保護者の不安をよく傾聴・理解し、迅速に適切な対応がされ、児童の安全安心が確保されていた。
- ・⑥高学年を中心としたあいさつ運動のおかげで、毎朝元気なあいさつが聞こえてくる。
- ・⑭どの学年も、実態に応じてICT端末を積極的に活用している。わからないを言い訳にせず、声を掛け合いながら情報共有している。
- ・⑭今年様々な研修を通して、先生方のスキルも向上し、子供達も普段使いが出来るようになった。今となっては筆箱と同じように一つの学習のツールとして活用が出来ていると思う。
- ・⑭校内研究としてICTの活用に取り組み、その研究成果として普段の授業や学校生活の中で十分に活用できていると感じるため。
- ・⑭ICT端末を活用した授業が昨年以上に多く取り組まれるようになった。また、家庭学習や欠席児童とのやり取りに大変活用されるようになったため。
- ・⑭授業でICT端末を活用した主体的な学習が実現されていると思う。また、授業だけでなく家庭学習の際にも活用するなど、幅広い場面で児童の主体的な学習を実現するツールとなっている。
- ・⑭効果的な使用法について研修等で学び、児童の実態・状況をふまえながら、授業に活用しているから。
- ・⑯掲示物の工夫され、本校の特徴が表現されていた。校庭、校舎内の環境整備が整い、安全面だけでなく快適に生活できる環境になったと思う。

#### ◆CとDについて～課題

- ・④家庭学習に関しては、振り返りはしていたが、自主学習の推進や学習の進め方などの提示が出来なかった。宿題だけでなく読書や自主学習にも取り組ませるのであれば、何か取り組みを進めた方がよいと思うが、子供達も先生方も負担のない範囲で。
- ・④家庭学習の習慣がなかなか身につかない。
- ・⑥あいさつ運動をしても、児童から積極的にあいさつをしている様子がみられない。児童会でも、工夫した取り組みが必要だと感じている。
- ・⑥⑩⑪あいさつをもっと元気に出来るようにさせたい。特に朝のあいさつが元気がない。早寝早起き朝ご飯等の生活習慣も関係しているのではないかと感じる。
- ・⑨⑩職員室でもよく話題に上がっているため。子どもたちからゲームの話もよく聞くので、家でもたくさん使っているのだろうと感じる。
- ・⑩メディアの使用時間が多く感じる。家庭学習でICT端末を活用することもあるため、メディア(特にテレビゲーム)の時間が増えることによる視力の低下や睡眠不足につながっている。保護者と連携し、取り組むべき課題であると感じる。
- ・⑩⑪規則正しい生活習慣について、確立している児童と支援が必要な児童の差が大きく、普段の生活リズムが学校生活に影響が出ていると感じるため。
- ・⑩ゲームやメディアに関わる時間が長い児童の、取り組みによる変化が見られない。
- ・⑩⑪休み時間に固定遊具などで遊ぶ姿が多い。また、遊ぶ内容もあまり多様化していないのではないかと感じる。個人差はあるが、生活習慣が形成されていない家庭もある。
- ・⑪体力が向上しているかは判断が難しいから。運動に親しんでいる様子は見られるが、運動が限定されたものになっているように思うから。

#### ◇ご意見(○良いところ、△良くないところ、▲次年度への課題)

- ・○少人数の良さをいかした決め細かな指導・支援、地域との交流も盛なこと、伝統(岩手太鼓)を受け継いでいることなどの強みを継続していけるようにしていきたい。
- ・○少人数をいかした活動がとてよくできていて、素直な児童がしっかりと成長している様子がよくみられる。学習面で、子どもの力を無理なく伸ばせるような方策がとれるとよいと思う。今年度の、朝の学習の徹底はとてもよかったと思う。
- ・○△小規模校ならではの、メリットとしてきめ細かな指導や支援が行われている。デメリットとして少人数なので新たな人間関係を築くのが難しい。
- ・▲タブレットを活用できるようになり、子ども達の技術も高まってきた。それに伴い、利用時間もかなり延びている。学校でも1日2時間続けて利用してしまうこともあり、児童の健康面に配慮できるようにしていかなければいけないと感じている。
- ・▲児童数の減少によって、今後の学校行事や体制をどう変えていくかは、またその都度検討していく必要があると思う。先を見据えて。
- ・▲少人数の良さをより効果的な教育活動につなげられるようにしていきたい。

## R 5 年度学校評価の分析結果と今後の方向性

学校長が提示した学校経営方針に基づき、学校教育目標の達成に向けて、教育活動を進めてきた。また、学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールとしての歩みは3年目となり、地域団体との活動を教育課程に位置づけ活動が続けてきた。長引いた新型コロナウイルス感染症も5類へ移行された関係で、教育活動の制限も解除され、地域や学校外と連携した活動を、当初の計画通り全て無事行うことが出来た。また、学校現場では、教育DX化が急速に進んだ。

そんな中、教職員の自己評価や児童・保護者・教職員のアンケート結果から、本年度の学校運営の成果と課題が明らかになってきた。

以下に本年度の成果と課題点について記した。課題点については、具体的な対策を検討し、目に見える形や行動にして改善する必要がある。

### 1 確かな学力の育成

#### ○成果

- ・教育活動全体を通して、少人数の良さを生かし、きめ細かな個に応じた指導が行われている。一人の児童に対する支援や指導も手厚く、時間も十分に確保できている。
- ・学習に対しても、誰一人取り残すことがないように、きめ細かな指導が出来ている。
- ・ICT機器の活用では、一台端末が導入され3年目を迎え、どの職員も授業で活用できていて、子ども達も十分に使いこなしている。

#### ●課題

- ・家庭学習や自主学習への取り組みなど、基本的な学習習慣の確立に課題がある。各クラスで取組を行っているが、今後学校全体としてICT機器の活用を視野に入れた取組が必要である。
- ・授業においては、継続してICT機器の活用をすすめる必要がある。あわせて、学力の二極化にも対応していく必要がある。
- ・昨年度から始めた、「未来へつなごう岩手っこのまなび」の取り組みを、さらに工夫したうえで継続していく。

#### 方向性

- ・家庭学習（宿題・自主学習）の取り組みを、対面で紹介するなどして頑張りを認める場を作る。
- ・引き続き、きめ細かな、個に応じた学習指導を続けていく。朝学習を計画的に行い、基礎基本をきちんと定着させる。
- ・「未来へつなごう岩手っこのまなび」にICT機器の活用を取り入れる。頑張りを「見える化」して、進んで自主学習に取り組めるよう指導を行う。

### 2 豊かな心の育成

#### ○成果

・昨年度の反省から、「進んで考え行動できる児童」を目指してきた。学校全体で考えさせる一手間をかけることを共通理解の下、指示を待つのではなく、失敗してもよいから、自分で考えて行動することや子ども達の意見を大切にすることを心がけてきた。その成果が、日頃の学校生活や、各種学校行事等にも現れていた。

・命を大切にすることや、他者を思いやる心はしっかり育まれている。先生方が熱心に児童一人一人に寄り添った指導を行っていることが、保護者のアンケート結果にも、数値にも表れている。

### ●課題

- ・教職員からあいさつをすると、あいさつを返すことは出来るが、自分から進んであいさつするまでには至っていない。アンケートからは、児童の肯定的評価は高いが、保護者・教職員の肯定的評価は低く、差を感じる。気持ちの良いあいさつとはどんなものかについて、児童会が中心になって子ども達に伝えてきたが、今後も継続して取り組んでいく。
- ・「読書」については、昨年度に引き続き、アンケートで三者ともに肯定的意見が低い。保護者のアンケートには、読書の習慣を身につけさせたいという意見があったが、学校で読書をする機会を数多く作っていることは伝わっている。今後も、家庭で読書をする取組を継続して行い、読書の習慣化をはかっていく。

#### 方向性

- ・児童会が中心になって、あいさつの取組みを継続して行う。
- ・読書をする機会を増やす。また教員も一緒に読書をしたり、引き続き図書委員会の取組みを定期的 to 実施したりする。
- ・道徳教育を推進するために、授業参観で道徳の授業を実施する。

## 3 健やかな体の育成

### ○成果

- ・健康指導、食育指導等、子ども達自ら健康を意識するような指導をしている。
- ・安全教育として、防災・防犯訓練を計画的に実施することが出来た。

### ●課題

- ・HITや昼休みに外遊びをする児童が多いが、「運動の二極化」も見られるので、全ての児童が楽しく体を動かすことができる指導の工夫が必要である。また、肥満傾向の児童が見られるので、引き続き家庭と連携して食育を推進していく必要がある。
- ・ネット・ゲームの時間管理が上手に出来ている家庭とそうでない家庭の差が大きい。また、アンケートでも保護者・教員ともに肯定的意見が低い。お便りや学年部会等を活用し、学校と家庭で連携を図る。

#### 方向性

- ・お便りや学年部会で、インターネットやメディア使用について話題に取り上げ、学校と保護者が連携していく。また、外部講師の招聘も引き続き行う。
- ・体力向上については、体育の日常化を目指し、外遊びを引き続き奨励する。
- ・肥満傾向への対策については、家庭とも連携し、食育を進める。

## 4 地域や世界で活躍できる人材の育成

### ○成果

- ・地域の方との交流や、地域行事への協力は長年行ってきたことにより、その仕組み自体が上手く出来上がっている。今後は、地域人材バンクの活用などを通して地域に学校と関わりを持ってもらう取組を継続していく。

### ●課題

- ・キャリア教育については、児童が自分でたてた目標を意識させる機会を増やす必要がある。

#### 方向性

- ・今後も地域連携を維持しながら、安全・安心で信頼される学校作りを進めていく。
- ・新たに岩手小学校支援ボランティアの活用を考えていく。
- ・自己存在感・自己肯定感・自己有用感を育むように、目標設定と達成を繰り返す取組を行う。

## 5 働き方改革

### ○成果

・時間外在校時間をグループウェアで管理してきたが、学校平均としては月31時間程度、70時間を超える職員は0人であった。職員会議等の簡略化、校務の学校DX化もすすめることができた。今後も、業務改善・働き方改革を進めていく

### ●課題

・小規模校のため1人の職員の校務分掌が多くなっている。時間外在校時間は職員によるばらつきがある。過去の資料の活用を積極的に行い業務改善を行っていく。

### 方向性

- ・学校DX化をさらに推進する。
- ・日課時刻表再編により生み出した放課後の時間を有効活用し、児童の指導を充実させるとともに、働き方を見直す。
- ・時間外在校時間を意識させながら、過去の資料の積極的な活用を呼びかける。

## 6 児童・保護者・教職員のアンケートから

○成果（平均値・肯定的評価ともに、三者のうち二者以上が特に高い評価をしたもの）

- ・「先生は、子どもの学習状況に合った方法でわかりやすく教えてくれている」
- ・「先生は、子どもの学習状況に合った方法でICT端末や大型モニターを使って授業をすすめてくれている」
- ・「先生は、お子さんのことで困ったら相談にのってくれる」←全て高い評価
- ・「お子さんの話や授業参観や学校行事、学校・学級だよりで学校の様子がよく伝わっている」

●課題（平均値・肯定的評価ともに、三者のうち二者以上が相対的に低い評価をしたもの）

- ・「宿題や自主学習など家庭学習を進んでいますか」
- ・「読書に親しんでいると思いますか」  
→三者とも平均値が3.0未満の項目は「読書に親しんでいる」1つだけである。学校では、図書時間の確保や、図書集会や読み聞かせなど工夫した取り組みを計画的に行っているが、その結果が数値に表れていない。この項目は昨年度同様に低く、引き続き対策が必要であることがわかる。
- ・「ネット使用時間やゲーム使用時間を守るなど、自分の健康を守る生活が出来ていると思いますか」

### ◎学校教育アンケート総括

・平均値が3.0以上(中央値は2.5)を達成された項目と考えると、全体的に達成された項目が多い結果が出ている。また、児童・保護者の認識と教職員の認識が同じ項目が多い。

保護者の記述意見を見ても、『学校へ行くのが楽しいと言っている』『先生が良いところを見つけ、褒めてくれる』『熱心に指導してくれていて、なんでも相談できる』といった、学校を信頼してくれていることがわかる意見が多い。

また、「あいさつ」「体力向上」「ネット使用時間」について、児童はできているとの認識であるが、保護者・教職員つまり大人の目からすると課題が多い。特にアウトメディアなどは、引き続き児童本人が意識できるような取組が必要である。

## R 5 年度学校関係者評価

3月1日（金）の第3回学校運営協議会において、「R 5 年度学校評価の分析結果と今後の方向性」を示し、今後の学校運営の方向性について、ご意見を頂き、承認していただいた。各項目で出された意見については以下の通りである。

### 1 自己評価・学校教育アンケートについて

- ・子どもと保護者と教員の評価に差がある。例えば「読書」については、感覚的な物なので、子ども達に目標を決めさせて、それが達成できたかどうかで評価していくなど、評価の仕方をはっきりさせた方が良いと思う。
- ・本に親しむという観点から、本が沢山ある場所、例えば図書室、市立図書館、県立図書館、本屋などに児童を連れて行くという手段も考えられる。
- ・対象となる母集団が小さいので、アンケートの結果だけで判断するのは難しい。結果を見て現状を捉えて是正していくことが大切。三者の違いがあるところや、結果の低いところには手立てを加え、アンケートの結果を活用することが大事。

### 2 学校評価の分析結果と今後の方向性について

#### ○確かな学力と自立する力の育成

- ・少人数の学校の良さを生かし、先生方が児童一人一人の性格や弱点をよく分かっている
- ので、きめ細かな指導につながっていると思う。引き続き継続して行ってほしい。

#### ○豊かな心と自己実現を図る力の育成

- ・児童に具体的な目標を設定させ、達成できた喜びや自信をつけさせることが大切である。

#### ○健康な生活を送るための資質・能力の育成

- ・SNS等の使用については、学校生活に支障が出ている児童もいる。またアンケートの結果から、児童の考えと、保護者・教職員の考えにずれがあるので、引き続き対策をたてる必要がある。

#### ○安全・安心、信頼される学校作り 働き方改革

- ・保護者との信頼関係がしっかりと築けているところが素晴らしい。

### 3 全体を通して

- ・作品展への参加など、公民館の活動への協力は大変ありがたい。
- ・地域の方が地域学校協働活動のコーディネート役を引き受け、岩手小学校支援ボランティア(岩手応援隊(仮称))の募集を始めた。来年度は、地域人材の活用を今まで以上に推進していく。
- ・岩手小学校の取り組みは、地域と連携しながら行っているものが多く、地域とのつながりが強く深いので、今後も継続して行って欲しい。
- ・岩手小学校は、一人一人に応じたきめ細かな対応ができていて、保護者からの信頼も厚い。課題については、家庭や地域と連携して取り組んでいくことが必要。
- ・学校運営協議会は地域と共にある学校づくりが目的なので、有効活用していくことが必要。今年度の活動も踏まえ、試行錯誤しながらよりよい学校運営協議会にしていく。

保護者各位

## 令和5年度学校評価の結果と今後の方向性

山梨市立岩手小学校

本年度の教育活動を振り返り、職員による自己評価及び保護者・児童・教職員を対象に、Google Forms によるアンケート調査を行いました。アンケート結果は裏面に記しました。アンケート調査の結果では、全体的に良好の評価をいただきました。

以下に、自己評価及びアンケート結果に示された本年度の教育活動の成果と課題点に基づいた今後の改善への方向性を記しました。保護者・地域の皆様と一層連携し、子どもたちの充実した学校生活を支援していきたいと思えます。引き続き、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

### 【成 果】

#### ① 充実した学校生活

学校生活については、ほとんどの職員・児童・保護者から良い評価をいただいています。今後も引き続き、学校が魅力的な場所になるよう、個に応じたきめ細かな対応と授業改善、ICTを活用した楽しく分かる授業づくりに取り組んでまいります。

#### ② 豊かな心の育成

小規模校のメリットを活かし、一人一人の児童にきめ細かく対応していると、児童・保護者から良い評価をいただいています。また、自己肯定感や他者を認める心などがしっかりと育っていると感じていただいています。さらに豊かな心の育成について、全職員、そして学校教育全体で進めてまいります。

#### ③ 安全・安心、信頼される学校

安全管理や情報発信、地域との連携について、ほとんどの職員・児童・保護者から良い評価をいただいています。児童の生活空間である校舎や校庭についての安全管理、学校の様子など情報発信、地域との連携を更に進めてまいります。

### 【課題点に基づいた今後の方向性】

#### ① 学習習慣の確立

「家庭学習（自主学習含む）」については個に応じた対応を進めていきます。自分で考えさせる自主学習を基本として、ICT機器も活用し、自主的に学ぶ姿勢を育みます。また、「未来へつなごう岩手っこのまなび」の取り組みも継続し、家庭学習の習慣化を図ります。

#### ② 豊かな心の育成

「読書活動」については、三者とも評価が相対的に低いです。学校では引き続き、読書時間の確保等の取り組みを行い、家読の習慣化をさらに図ります。また、心の教育については、重点指導項目の第一に取り組むこととし、学校教育全体を通して進めてまいります。今後も児童にとって居心地の良い学校づくりに取り組みます。

#### ③ 基本的生活習慣の確立

保護者・職員ともに、最も課題と感じているのがネット使用（ゲーム等）時間です。来年度も、家庭と協力しながら改善を図ることが出来るよう、お便りや学年部会等で話題にしていきます。また、「早寝早起きチャレンジカード」等を利用し、客観的に生活時間が把握でき、自分で考えて改善を行えるような取り組みを行います。

## 令和5年度 学校教育アンケート <三者比較>

A:とてもそう思う(4)    B:そう思う(3)  
C:あまり思わない(2)    D:思わない(1)    とした場合の値です (中央値は2.5)

平均値

| 番号 | 質問内容                                                          | 児童  | 保護者 | 職員  |
|----|---------------------------------------------------------------|-----|-----|-----|
| 1  | お子さんは、学校で友だちと仲良く活動したり、遊んだりしていると思いますか。                         | 3.8 | 3.5 | 3.4 |
| 2  | お子さんは、みんなで学習するときの望ましい態度(忘れ物をしない、落ち着いて先生や友達の話聞く等)が出来ていると思いますか。 | 3.0 | 2.9 | 3.1 |
| 3  | お子さんは、授業の内容がわかっていると思いますか。                                     | 2.9 | 3.0 | 3.2 |
| 4  | お子さんは、宿題や自主学習など家庭学習を進んでしていますか。                                | 3.0 | 2.9 | 2.9 |
| 5  | お子さんは、読書に親しんでいると思いますか。                                        | 2.5 | 2.7 | 2.7 |
| 6  | お子さんは、まわりの人に進んであいさつをしていると思いますか。                               | 3.5 | 3.0 | 3.1 |
| 7  | お子さんは、生命を大切にする心や他人を思いやる心、善悪の判断が身についていると思いますか。                 | 3.5 | 3.4 | 3.4 |
| 8  | お子さんは、自分の良いところや友達の良いところを認めていると思いますか。                          | 3.4 | 3.1 | 3.3 |
| 9  | お子さんは、基本的生活習慣(早寝・早起き・朝ご飯など)が身についていると思いますか。                    | 3.4 | 3.0 | 2.9 |
| 10 | お子さんは、ネット使用時間やゲーム使用時間を守るなど、自分の健康を守る生活が出来ていると思いますか。            | 3.3 | 2.8 | 2.3 |
| 11 | お子さんは、運動に親しみ、体力が向上していると思いますか。                                 | 3.5 | 3.0 | 2.7 |
| 12 | 先生は、子どもの学習状況に合った方法でわかりやすく教えてくれていると思いますか。                      | 3.7 | 3.6 | 3.3 |
| 13 | 英語の授業では、先生は、子どもの学習状況に合った方法で、英語に慣れ親しむ活動を取り入れてくれていると思いますか。      | 3.4 | 3.4 | 3.5 |
| 14 | 先生は、子どもの学習状況に合った方法でICT端末や大型モニターを使って授業をすすめてくれていると思いますか。        | 3.8 | 3.3 | 3.6 |
| 15 | 先生は、お子さんのことで困ったら相談にのってくれると思いますか。                              | 3.7 | 3.6 | 3.6 |
| 16 | お子さんの話や授業参観や学校行事、学校・学級によりで学校の様子がよく伝わっていますか。                   | 3.5 | 3.5 | 3.6 |
| 17 | 学校は、環境が整備され、子どもたちが安全に生活できていると思いますか。                           | 3.5 | 3.4 | 3.4 |

多くの項目について、良い評価をいただきました。記述では、「一人一人の子をよく見て指導してもらっている」「先生が子どもの良いところを見つけ褒めてくれる」「学年関係なく遊び、上級生が下級生の面倒を見ている」「先生がよく話を聞いてくれる、相談できる」「先生が子どもの一人一人の違いをよく理解してくれている」等、教員の指導や、児童との関係、ご家庭との連携や協力ができているとのご意見が複数ありました。いただいたご意見を励みに、今後も岩手小児童の健やかな成長に尽力してまいります。

4、5、10番が主な課題です。記述でも多くの意見をいただいた項目ですが、どのご意見も、児童自身や家庭の課題として捉え、前向きに改善をしていきたいという内容でした。

学校では、課題の残った項目について具体的な取組を検討してまいります。各ご家庭でも課題意識を持ち、改善へのご支援とご協力をいただけますようお願いいたします。